

ビオトープフォーラム in 静岡2016

ー人と生物のための生態系インフラ

実施報告書

日時：2016（平成28）年6月3日（金） 13:00～16:45

場所：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」大会議室（静岡市駿河区馬淵 1-17-1）

主催：特定非営利活動法人日本ビオトープ協会

共催：公益社団法人 静岡県造園緑化協会、自然環境復元学会

後援：環境省、国土交通省、農林水産省、文部科学省、静岡県、静岡市〈順不同〉

◆フォーラム参加者 計 90名

官庁・後援関係	13	名	環境団体関係	3	名	一般	5	名
マスコミ関係	5	名	学生・学校関係者	5	名	造園団体・造園業者	26	名
協会員	33	名						

◇総括

『ビオトープフォーラム in 静岡 2016』は、地元静岡をはじめ全国から参加をいただき、人と生物のための生態系インフラをテーマに盛大に開催することができました。関係官庁の後援と講師の先生、協会員の方々をはじめ、皆様にご協力をいただき心より感謝の意を表します。また、ご多用中にも関わらず、静岡県くらし・環境部理事の志村弘一様、横井志伸様、後程ご講演をいただく環境局自然保護課課長代理の馬塚雅敏様、静岡市役所都市局都市計画部緑地政策課の皆様、共催の公益社団法人静岡県造園緑化協会より専務理事兼事務局長の増田章二様、また代表顧問としてご指導いただいた故杉山恵一先生のご令室美智子様にご臨席を賜り、志村様よりご祝辞を頂戴いたしました。

静岡県くらし・環境部理事 志村弘一様 祝辞

本日、「ビオトープフォーラム in 静岡 2016」が、ここ“ふじのくに”静岡県において、このように盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地から本県にお越しいただきました皆様を心から歓迎いたします。

本日の主催者であります特定非営利活動法人日本ビオトープ協会におかれましては、平成5年の設立以来長きにわたり、人と自然との共生を目指し、多様な生物の生息空間であるビオトープの保全、復元、創出に取り組み、こうした活動の必要性についての社会的な認知度を大幅に向上させた功績は非常に大きく、深く敬意を表する次第であります。

さて、本県では現在、本県の多彩で豊かな自然環境を未来に継承し、多様な生物が共存できる社会の実現に向け、生物多様性の保全に関する基本的な考え方や、関連政策の方向性を示す「生物多様性地域戦略」の策定と、その基礎的な資料となります希少野生動植物を取りまとめた県版レッドデータブックの改訂を、平成29年度を目途に進めております。こうした作業に当たりましては、生態系の維持や生物多様性の確保に対する貴協会の高い理念を参考にさせていただくとともに、広く県民の皆様の御参加もいただきまして進めてまいりたいと考えております。

結びに、本フォーラムの開催に御尽力いただきました関係の皆様へ深く感謝いたしますとともに、フォーラムの御成功はもとより、貴協会のますますの御発展と本日御出席の皆様様の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

フォーラムでは、はじめに協会会長櫻井淳より開会の挨拶として、当協会では地域の自然環境の保全・復元・維持管理の現場で活躍するビオトープアドバイザーという技術者の養成に力を入れている事、今回のテーマである人と生物のための生態系インフラを取り上げた事について、また今年度ビオトープ協会発祥の地・静岡で開催する事にした意義と開催に至る関係者への謝意が述べられました。

第1部では、ビオトープ顕彰委員会委員長、横浜国立大学学長・鈴木邦雄氏の講評と、「第8回ビオトープ顕彰」表彰式が行われ、本年度ビオトープ大賞の株式会社北日本新聞社はじめ各受賞者に櫻井会長から表彰状が手渡されました。引き続き事例発表が行われ、「北日本新聞 創造の森『越中座』」ビオトープ空間『婦負の風』」「トヨタの森」「東京農業大学伊勢原農場ビオトープ」の3件の事例が、紹介されました。（別紙フォーラムレジュメ資料集掲載）（顕彰講評・受賞紹介：協会WEB）

第2部は協会代表顧問・顕彰委員会委員長、自然環境復元学会会長、横浜国立大学名誉教授・前学長の鈴木邦雄先生より「人と生物のための生態系インフラ」と題して基調講演をいただきました。東日本大震災被災地の海岸林の重要性について、昔から人々の生活と密接な関係にあったこと、人や生物にとってかけがいの無い自然環境であった「里地里山」と共に失われてきている。次世代に向けて、豊かで身近な自然を復興する事が、地域の復興発展の原点である。海外の事例なども含めた幅広い解説により、生態系インフラの重要性を説かれました。

次に特別講演として、協会顧問、龍谷大学名誉教授の竺文彦先生に「ドイツ・スイスのビオトープづくり」についてご講演いただきました。人と生き物が、どの様に付き合っていくかの議論が日本には無いこと、ヨーロッパの河川工事には、コンクリート3面張りの工法は無いこと、子供の頃から環境教育に力を入れていることなど、多くの事例を紹介しながらのドイツ・スイスの環境への取り組みの深さを感じるご講演でした。視察取材からかなりの年数が経過しているとの事でしたが、その技術に改めて新鮮さを感じました。

続いて、静岡県くらし・環境部自然保護課課長代理の馬塚雅敏様に「静岡県の生物多様性保全の取組」と題してご講演いただきました。ビオトープ協会発足の静岡県における生物多様性の現状と課題について、これまでの取組み、地域戦略の策定の途中経過について、具体的なデータを示して講演頂きました。静岡県は、その地形や成り立ちから、多様な環境の中で極めて多様な野生生物が観察される宝庫。生物多様性地域戦略策定に、県民・企業・団体が参画して市町村との連携で施策の整合性を図るなど、他の範となる取り組みが紹介されました。〈裏面へ続く〉

閉会の辞は、協会顧問吉川宏一氏よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。

このフォーラムを通じて、地球環境の改善・生物多様性社会・いのちを知る環境学習・コミュニティづくり等の重要性を再認識し、当協会の役割と責務の大きさを実感いたしました。今後も自然との共生をめざした活動を推進し、持続可能な地域づくりに貢献して参ります。

最後に、皆様のご協力に対し心より厚くお礼申し上げます、今回得られた知識・技術を各地で生かして活動されますことをご祈念申し上げます。

2016 年6月吉日

一別紙レジュメ資料集の通り、盛会にて終了いたしました一

～「ビオトープフォーラム in 静岡」の様子～



開会



祝辞 志村様



第1部 顕彰表彰・講評・事例発表



第2部 基調講演・特別講演・講演

～2日目エクスカーシンの様子～



閉会



ふじのくに地球環境史ミュージアム、麻機遊水地 視察

〈ミュージアムでは学芸課様他、遊水地では麻機湿原を保全する会・静岡県静岡土木事務所河川改良課様に解説等頂きました〉